

臟器機能障礙時ニ於ケル「ウロクロモゲン」尿ニ就テ

第 二 報

肝臟糖原質量寡少時ニ於ケル「ウロクロモゲン」尿ニ就テ

大阪市立刀根山病院(院長 太繩博士)

藤 野 保 次

(9 月 1 日受領)

(本論文ノ内容ハ第 16 回日本結核病學會ニ於テ發表セリ)

第一章 緒 論

「レチチン」乳化液ノ注射ニ依リ肝臟糖原質量ヲ減少セシメ得ル事ハ Cruto, Alfanso, 長尾、大友、吉田ノ諸氏ニ依リ報告セラレタ所デア。而シテ肝臟糖原質量ヲ減少セシメタル場合ノ肝臟機能ニ就テハ、吉田ハ10%「レチチン」乳化液ヲ家兎ニ體重毎斤10cc靜脈内ニ注射シ、糖液ヲ經口ニ投與シテ肝臟糖原質生成能力ニ就テ檢セルニ、著シク障礙セラレタルヲ認メタト言フニ反シ、長尾ハ同様ニ「レチチン」ヲ注射シ糖液ヲ靜脈内ニ投與シテ同様肝臟糖原質

生成能力ヲ檢シ正常ニ維持セラレルトイフ。又松岡ハ3%「レチチン」乳化液ヲ家兎ニ體重毎斤5乃至10cc靜脈内ニ注射シタル後肝臟ノ色素排泄機能ヲ檢査シタルニカヘツテ亢進セルヲ認メタトイフ。長尾、松岡ノ説ク所ハ肝臟糖原質量ノ大小ガ肝臟機能ニ影響アリトナス從來諸家ノ見解ト對比シ注目ニ價スル事實デア、ココニ於テ余ハ「レチチン」注射ニヨリ肝臟糖原質量ヲ減少セシメタルトキノ肝臟ノ「トリプトフーン」代謝機能ニ就テ檢索ヲ行ツタ。

第二章 實驗方法

2 斤内外ノ白色雄性成熟家兎デ一日量雪花菜300瓦、野菜50瓦ヲ以テ實驗前少クトモ1週間飼養シタルモノヲ用ヒ、「レチチン」ハ「メルク」製「オボレチチン」ヲ用ヒ蒸留水ヲ以テ20%乳

化液ヲ作りコレヲ家兎ニ體重毎斤10ccヲ右耳靜脈ニ注射シ、注射後ハ絶食セシム。「トリプトフーン」負荷試驗方法ハ第一報ニ記載セル所ニ順フ。

第三章 實驗成績

第一項 「レチチン」注射6時間後ニ於ケル「トリプトフーン」負荷試驗

第1例 家兎10號 2.300 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷2時間後	4時間後	6時間後	8時間後
健 常 時	0.19 (6.48)	0.8 (24.8)	0.5 (15.5)	0.5 (16.0)	0.25 (7.8)
「レ」注 射 後	0 (0)	0.81 (30.95)	0.48 (11.88)	0.4 (10.88)	0.28 (8.99)

數字ハ「ウロクロモゲン」ニシテ括弧内ハ「ウロクロモゲン」ナリ、以下之ニ順ズ

第 2 例 家兎 11 號 2.030 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.11 (4.9)	0.92 (55.2)	0.3 (14)	0.18 (5.4)	0.13 (3.6)
「レ」注 射 後	0.18 (3.3)	0.5 (10)	0.44 (5.5)	0.3 (5.2)	0.16 (2.66)

第 3 例 家兎 13 號 1.870 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.08 (2.06)	0.6 (31.5)	0.3 (10.56)	0.13 (3.4)	0.1 (2.04)
「レ」注 射 後	0.1 (2.2)	0.5 (9)	0.3 (3.6)	0.2 (3.0)	0.13 (2.0)

第二項 「レチチン」注射 12 時間後ニ於ケル「トリプトファン」負荷試験

第 1 例 家兎 14 號 2.135 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.08 (5.72)	0.38 (13)	0.23 (5.5)	0.11 (3.63)	0.06 (1.8)
「レ」注 射 後	0.08 (1.4)	0.35 (12)	0.23 (5.0)	0.13 (2.0)	0.1 (2.2)

第 2 例 家兎 17 號 2.380 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.12 (2.42)	0.67 (21.6)	0.47 (12.73)	0.13 (2.4)	0.14 (2.1)
「レ」注 射 後	0.12 (2.64)	0.81 (21.44)	0.42 (9.0)	0.25 (2.0)	0.12 (2.28)

第 3 例 家兎 18 號 2.450 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.1 (2.4)	0.4 (11.4)	0.12 (2.6)	0.13 (2.4)	0.06 (1.2)
「レ」注 射 後	0.08 (1.4)	0.58 (20.3)	0.18 (6.0)	0.13 (2.2)	0.06 (1.1)

第三項 「レチチン」注射 18 時間後ニ於ケル「トリプトファン」負荷試験

第 1 例 家兎 23 號 2.300 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.07 (18.72)	1.25 (60)	0.36 (8)	0.13 (2.2)	0.04 (1)
「レ」注 射 後	0.1 (2.1)	0.75 (34.24)	0.24 (5.46)	0.1 (2.6)	0.08 (2.0)

第 2 例 家兎 25 號 2.420 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.1 (1.84)	1.0 (42)	0.22 (4.8)	0.14 (3.6)	0.09 (2.0)
「レ」注 射 後	0.06 (1.08)	0.5 (10)	0.22 (4)	0.13 (2.2)	0.1 (1.43)

第 3 例 家兎 26 號 2.450 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.15 (4.5)	0.76 (57)	0.33 (15)	0.2 (7.5)	0.12 (3.4)
「レ」注 射 後	0.11 (5)	1.0 (43)	0.31 (9.79)	0.16 (5.95)	0.13 (3.4)

第四項 「レチチン」注射 24 時間後ニ於ケル「トリプトファン」負荷試験

第 1 例 家兎 21 號 2.560 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.06 (1.6)	0.4 (11.2)	0.27 (6.8)	0.08 (1.8)	0.08 (1.0)
「レ」注 射 後	0.06 (5)	0.47 (15.4)	0.3 (5)	0.15 (3)	0.09 (1.3)

第 2 例 家兎 22 號 2.150 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.09 (2.4)	0.4 (5.4)	0.28 (17.1)	0.1 (3.0)	0.05 (1.0)
「レ」注 射 後	0.12 (2.0)	0.65 (20.5)	0.25 (5.0)	0.11 (2.2)	0.11 (3.3)

第 3 例 家兎 28 號 2.370 kg

	「ト」負荷直前	「ト」負荷 2 時間後	4 時間後	6 時間後	8 時間後
健 常 時	0.1 (3.22)	1.3 (84.32)	0.2 (7.5)	0.1 (3.64)	0.09 (2.53)
「レ」注 射 後	0.06 (1.8)	1.82 (124.44)	0.67 (24.42)	0.23 (5.4)	0.1 (2.5)

第四章 總括及ビ考察

「レチチン」注射ニヨリ肝臟糖原質ヲ減少セシメ、「トリプトファン」負荷試験ヲ行ヒタルニ、健常時ト比シ何等著明ナル變化ヲ認メ得ナクシタ。故ニ少クトモ肝臟ノ「トリプトファン」代謝機能ハ肝臟糖原質量ノ多少トハ直接ニ何等ノ關係ヲモ有シナイコトガ明カトナツタ。

サテ結核患者ニ於テ顯著ナル「ウロクロモゲン」尿ヲ呈スルトキ、「ビタミン」B、「チオ」硫酸曹達等ヲ投與シテ尿中「ウロクロモゲン」量ヲ容易

ニ減少セシメ得ルコトハ既ニ渡邊博士次デ余ノ證明セル所デアアルガ、カカル場合ニソレ等ノ操作ガ肝臟糖原質ヲ増加セシメルコトガ第一義デアツテ、次デ肝臟機能ヲ亢進セシメ尿中「ウロクロモゲン」量ノ減少ヲ來サシムルモノト考ヘル事ハ誤謬デアツテ、少クトモ肝臟ノ「トリプトファン」代謝機能ノ上ニハ肝臟糖原質量ノ多少ガ直接ノ意味ヲ持タヌコトガ茲ニ明カニサレタノデアアル。

第五章 結 論

肝臟ノ「トリプトファン」代謝機能ハ肝臟糖原質量ノ多少トハ何等ノ關係ヲモ有セズ。

摺筆ニ臨ミ不斷ノ御鞭撻ト本稿ノ御校閲ヲ賜ハリシ院長太繩博士及ビ御指導、御校閲ヲ賜ハリ

シ渡邊博士ニ謝意ヲ表ス。

大阪帝大市原助教授ニ萬腔ノ感謝ヲ捧グ。

尙御多忙中ニモ不拘本稿御校閲ノ勞ヲ賜ハリシ

主要ナル文獻

1) 渡邊, 大阪醫學會雜誌. 29 卷, 昭和 5 年. 2) 渡邊, 藤野, 結核. 第 15 卷, 昭和 12 年. 3) 松尾, 實驗消化器病學. 第 12 卷, 昭和 12 年. 4) 長尾, 大友, Tohoku Journal of exp. Med. 24,

25 卷(1934, '35). 5) 松岡, 實驗消化器病學. 第 10 卷, 昭和 10 年. 6) 吉田, 東京醫學會雜誌. 第 51 卷, 昭和 12 年.